

令和4年度昭和館運営事業計画案について

令和4年度も引き続き新型コロナの感染状況を考慮しつつ事業を実施することとする。

1 令和4年度昭和館運営事業予算（案）

	令和4年度	令和3年度	前年度比
<歳入関係>			
1. 昭和館運営委託費	460,577 千円	458,590 千円	1,987 千円
2. 昭和館運営収入	19,255 千円	19,255 千円	0 千円
合 計	479,832 千円	477,845 千円	1,987 千円
<歳出関係>			
1. 事務人件費等	56,063 千円	55,708 千円	355 千円
2. 管理諸費	156,600 千円	157,500 千円	△900 千円
3. 事業人件費等	110,830 千円	111,144 千円	△314 千円
4. 資料購入・整備関係	37,557 千円	33,310 千円	4,247 千円
5. 情報機器関係	47,500 千円	47,000 千円	500 千円
6. 展示替え経費	6,000 千円	6,000 千円	0 千円
7. 特別企画展経費	24,666 千円	24,666 千円	0 千円
8. 来館促進経費	21,717 千円	21,355 千円	362 千円
9. その他	18,899 千円	21,162 千円	△2,263 千円
合 計	479,832 千円	477,845 千円	1,987 千円

※ 上記に加え、デジタルアーカイブの構築等の経費を令和3年度補正予算に 36,333 千円計上し、令和4年度に繰り越して実施予定。

2 広報活動計画

(1) 昭和館事業のPR活動等

昭和館の事業内容のPR及び春、夏の特別企画展の案内を行い、鉄道車両及び交通機関の主要駅にポスター等を掲示する。また、東京メトロ九段下駅4出口、東西線2番ホーム、半蔵門線3番ホーム、JR 飯田橋駅の電飾掲示板に掲示し、集客に努める。九段郵便局、さらに、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかとく」、JTBや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区区報に当館の紹介記事を掲載する。

その他、新聞広告等については、主要新聞等や日本教育新聞に掲載をする。

(2) 広報資料の送付等

「昭和館館報」については、都道府県、政令指定都市、東京特別区、教育委員会、老人クラブ連合会、各省庁図書館に対し送付する。なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には、「昭和館館報」と「昭和のくらし研究」を併せて送付し、当館の周知徹底を図る。

また、令和4年6月頃に、昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより」第38号を全国の公立小・中学校・中等教育学校と令和3年度の来館小学校（5年生）・中学校（2年生）、更に、東京都の校長会等で配付依頼した公立小学校（5年生）に発送し当館の周知を図る。なお、令和4年12月頃には「昭和館だより」第39号を送付し、社会科見学等の学校行事としての来館促進を図る。

(3) 刊行物の発刊

以下の刊行物を発刊する。

- ① 「昭和館館報」（令和3年度版）
- ② 「昭和のくらし研究」（第21号）

3 来館促進対策

(1) 常設展示室の入場無料等について

「昭和の日」（4月29日）、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」（8月15日）に常設展示室を入場無料とする。

(2) 第21回昭和館見学作文コンクール

令和4年度も引き続き実施し、7月に募集を開始する予定で進めていく。

(3) 第15回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール

令和4年度も引き続き実施する（7月上旬に募集開始予定）。

(4) 教員のための博物館体験

体験内容の充実と広報に努め、博学連携を図る。

(5) 貸出キット

実物資料や展示用パネル等の貸出を行う。

小中高等学校、公共団体及び各地の遺族団体に働き掛け、更なる利用促進を図る。

(6) 紙芝居定期上演会

当館所蔵の紙芝居上演会を、奇数月の第4土曜日に2階ひろばにおいて実施する。

開催予定日：令和4年5月28日、7月23日、9月24日、11月26日、
令和5年1月21日、3月25日

(7) こども霞ヶ関見学デー

令和4年8月に「こども霞ヶ関見学デー」が開催された場合、厚生労働省の会場において出張展示を行う。

4 展示事業

(1) 常設展示

長期展示による資料の劣化を避け、より多くの方々の寄贈資料を紹介するため、常設展示室を休室して資料の入替と清掃作業を行う。1回目は令和4年6月27日(月)から29日(水)まで、2回目は常設展示室展示替え工事(展示什器の更新)とあわせて令和5年1月前半(期間は2週間程度を予定)に実施する。

(2) 特別企画展

- ①「SF・冒険・レトロフューチャー×リメイク ～挿絵画家 椛島勝一と小松崎茂の世界～」
(再掲)【資料5】

○開催期間

令和4年3月12日(土)～5月8日(日)

○会場

昭和館3階 特別企画展会場

○特別協力

株式会社講談社 株式会社タミヤ

○後援

千代田区、千代田区教育委員会

○内容

雑誌『少年倶楽部』を中心に活躍し、「ペン画の神様」と呼ばれた挿絵画家・椛島勝一。その椛島が描く秀麗な挿絵に憧れて挿絵画家を志し、のちに空想科学(SF)挿絵画家として大成した小松崎茂。この2人の挿絵画家に焦点をあて、彼等の画業を通じながら戦中・戦後の少年文化とその移り変わりを紹介する。

② 「昭和の子どもたちとお菓子」(仮称)

○開催期間

令和4年7月16日(土)～9月4日(日)

○会場

昭和館3階 特別企画展会場

○後援(申請予定)

千代田区、千代田区教育委員会(申請予定)

○内容

戦前から戦中・戦後においてめまぐるしく変化する昭和の時代において、お菓子を中心に子どもたちの世界がどのように移り変わっていったのかを紹介する。

③ 「九段会館がみた昭和」(仮称)

○開催期間

令和4年7月16日(土)～9月4日(日)

○会場

昭和館3階 特別企画展会場

○後援

千代田区、千代田区教育委員会(申請予定)

○内容

昭和の激動を見つめ続けた九段会館の歴史について紹介する。

(3) 巡回特別企画展

① 昭和館・しょうけい館・平和祈念展示資料館 3館連携企画展 (仮称)

○開催期間

令和4年11月18日(金)～11月26日(土)

○会場

横浜市民ギャラリーあざみ野 展示室1・2(横浜市青葉区あざみ野南1-17-3)

○主催

昭和館 しょうけい館 平和祈念展示資料館

○協力・後援等(予定)

協力 一般財団法人神奈川県遺族会及び日本遺族会第2ブロック
後援 神奈川県 神奈川県教育委員会 横浜市 横浜市教育委員会
在神奈川報道各社 (申請予定)

○内容

戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるため、実物資料・写真資料・映像資料等を通じて、困難が多かった時代における人々の暮らしを紹介する。

② 「くらしにみる昭和の時代 沖縄展」(仮称)

○開催期間

令和4年11月30日(水)～12月10日(土)

○会場

那覇市民ギャラリー 第1～3展示室(那覇市久茂地1-1-1パレットくもじ6階)

○協力・後援等(予定)

協力 一般財団法人沖縄県遺族連合会及び日本遺族会第5ブロック
後援 沖縄県 那覇市 沖縄県教育委員会 那覇市教育委員会 在沖縄県マスコミ各社(申請予定)

○内容

戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるため、実物資料・写真資料・映像資料等を通じて、困難が多かった時代における人々の暮らしを紹介する。

(4) 写真展(2階ひろばにて)

令和4年3月19日(土)から5月8日(日)まで「うつりゆく昭和の九段下界限」と題した写真展を予定している。時代とともに移り変わってきた九段下とその周辺の様子を所蔵写真で紹介する。【資料6】

秋と来春については、所蔵写真の中からテーマを決めて実施していく。

5 資料収集

(1) 実物資料の収集

令和3年度に引き続き、収蔵庫の整理を進める。資料収集については、長期的な展望に立ち、資料情報を慎重に精査した上で受入れを検討する。資料修復は従来通り進める。

(2) 文献・図書資料の収集

令和4年度も引き続き戦中・戦後の生活関連図書及び戦争に関する基本的図書等約2,000冊の新刊書及び古書の購入を目標にしており、特に戦中・戦後の国民生活に関する図書資料の一層の充実を図る方針を継続する。利用者からの閲覧要望が多い『少年倶楽部』『少女倶楽部』『婦人倶楽部』など当時愛読された雑誌の欠号補充を行うとともに、昭和館収蔵図書の一つの特徴である手記や体験集、戦中・戦後にかけての日本各地の写真集や児童書などの収集に力を入れていく。また、昭和館HPやチラシ等による資料寄贈の呼びかけは継続して行う。

(3) 映像関連資料の収集

特別企画展や昭和館懐かしのニュースシアターをはじめ、特別上映会、資料公開コーナーなどでの活用を充実させるため、令和4年度においても「日本ニュース」を中心に、戦中・戦後の国民生活に関する動画や静止画の収集を行う。

(4) オーラルヒストリーの制作

体験者の証言を映像で記録して残すとともに、資料公開コーナーや巡回特別企画展、貸出キットなどを通して公開していくことを目的に制作している。映像音響室で現在公開している作品数は376作品である。

令和4年度においてもその充実をはかるとともに、戦中戦後の苦しかった生活の実態や戦後復興にご苦労された方の証言も加え、全体的に内容の充実を図る。

6 戦中・戦後の労苦を伝える語り部活動事業

第1、2期生は引き続き、「次世代の語り部」として講話活動を実施する。

第3期生も研修修了者の中から審査、「次世代の語り部」としての委嘱を経て、講話活動を開始する。

7 情報検索システムの充実

(1) 図書・雑誌資料のデータ入力

図書・雑誌の検索や閲覧のため、令和3年度に購入及び寄贈を受けた図書や雑誌約2,000冊の装備と書誌データ・目次データの入力を行い、来館者が利用できるようにする。

(2) デジタル雑誌システムのデータ作成

戦中の『毎日新聞』『少国民新聞』をはじめ、資料の破損などによって原本を提供することが難しい資料、さらにデジタルデータでの提供に移行した方がよいと思われる雑誌を中心にデジ

タル化を進めていく。

(3) SPレコードのデジタル化

引き続きレーベル画像及び音源のデジタル化を行いアーカイブにて公開していく。音源デジタル化については来館者からのリクエスト等を優先して実施する。

(4) デジタルアーカイブの構築

写真、映像、実物資料をインターネット上で外部公開するためのアーカイブを構築する。

(5) 映像資料のデジタル化

フィルムを所蔵するニュース映像については、ニュースシアターにおいて高画質な映像が提供できるようにハイビジョン化を実施していく。

(6) 写真資料のデジタル化

令和元年度に大量に入手したカメラマン・師岡宏次氏(※)の写真の整理を進め、順次デジタル化を進め館内アーカイブにて公開していく。その他、入手した写真については調査を行うとともにデジタル化を行い、来館者へ提供していく。

※師岡宏次 (もろおかこうじ)

大正3年(1914)東京芝区西久保巴町(現在の港区虎ノ門)に生まれる。昭和8年(1933)工藤孝写真研究所助手となる。昭和10年鈴木八郎写真研究所助手を経て、翌11年から16年まで合資会社アルスで写真雑誌「カメラクラブ」、「写真文化」などの編集に、昭和16年から20年までは国際報道工芸株式会社でタイ国向けの対外宣伝グラフ雑誌「カウパアプ・タワンオーク(東亜画報)」の編集に携わった。20年から32年までは商業写真業「東京フォト社」を自営、以降はフリーカメラマンとして活動。昭和48年(1973)に日本写真協会年度賞受賞。平成3年(1991)8月逝去。

(7) SNSの活用

ツイッターやフェイスブックを活用し、ニュースシアターの番組紹介、図書室での資料紹介等を随時アップして来館者の利用促進を図る。

8 資料の公開・展示

(1) 昭和館懐かしのニュースシアター

収集したニュース映画を「昭和館懐かしのニュースシアター」で毎日上映しており、令和4年度も引き続き実施する。令和3年度に購入した未公開の「日本ニュース」作品を加え、既に上映した作品を併せて順次公開する他、昨年度制作したオーラルヒストリーについても上映していく。

(2) 資料公開コーナーの運用

所蔵している資料を多くの方に見ていただくことを目的に、1階ロビーの「資料公開コーナ

一」で、写真、映像、SPレコード、図書・雑誌などを紹介する展示を継続して行う。話題の事柄等をテーマに取り上げて、年4回程度の展示を行う。

(3) 館内の検索システム

収集した図書資料をはじめ、映像資料、静止画資料、音響資料などのデータ化を行い、館内の検索システムで順次公開していく。

(4) 資料紹介

図書室では、テーマを設定した関連資料の紹介を定期的に行うとともに、時事的なトピックや特別企画展や写真展等に関連する資料については随時紹介していく。

また、夏休みには子ども向けワークシート等を作成し、小・中学生の利用促進を図る。

(5) 映像資料のWEB公開

米国立公文書館から入手した映像について、昨年度に引き続き昭和館 Youtube チャンネルでの公開を進める。

9 関係施設との連携

(1) 関係施設等連携会議の開催

戦中・戦後の労苦について国民への理解を深め、戦争を知らない世代への継承を図るため「昭和館」「しょうけい館」「平和祈念展示資料館」が連携して事業を推進する。

年2回関係施設等連携会議を実施予定。

(2) 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」の実施

引き続き、夏休みの児童・生徒を対象として令和4年7月から9月まで「夏休み3館めぐりスタンプラリー」を実施予定。

(3) 巡回特別企画展の相互協力

神奈川県における巡回特別企画展（「しょうけい館」、「平和祈念展示資料館」と「3館連携企画展」）の開催

令和4年11月18日（金）～11月26日（土）

(4) 移動教室（千代田区立九段生涯学習館）について

平和祈念展示資料館が実施予定の移動教室と連携した資料展示等を行う。

10 運営専門委員会の開催

昭和館運営事業について有識者から様々な意見を聴取するため、令和4年度も昭和館運営専門委員会を2回開催予定。